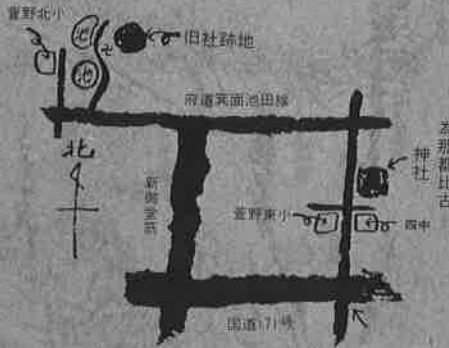


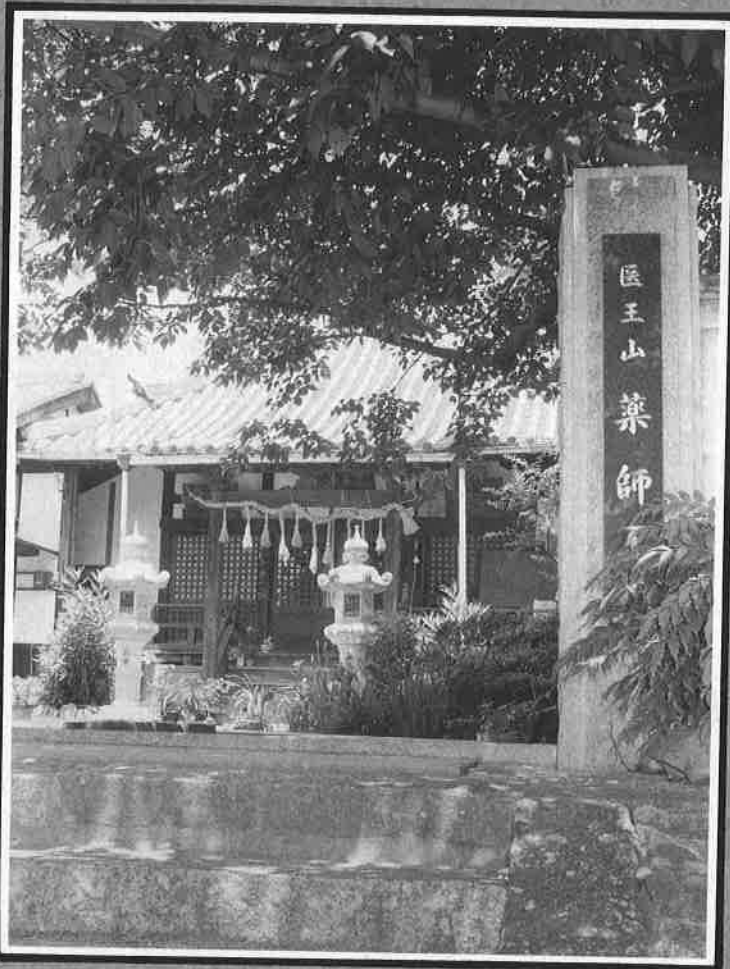
萱野地区(四)



天皇の寛平四年、聖宝尊師
開基也、豊嶋郡司左衛門尉
時原佐道宅につき、当山に
登り守護の山神牛頭天王の

郡の有力者によって建立された
時原一族の「氏寺」、つまり菩提
寺でもあったことが縁起から読
みとれます。

して北摂地域での泰氏といえは、
有名な飛鳥の石舞台古墳にも匹
敵する巨大な鉢塚古墳(池田市)
を残すくらい崇えた「池田泰氏」



このことは『三代実録』の元慶
四年(八八〇)と五年の記事で
わかります。この清和天皇に仏
法の師として身近につかえた
真雅上人は、真言宗の開祖空海
上人の高弟でした。その真雅上
人の門弟となり、修験道の重鎮
として活躍した高僧が、大宮寺
を聞いた聖宝尊師でした。

一方、元慶年間(清和天皇の
参詣された勝尾寺)に入山し、や
がて四代めの座主になった釈証
如上人は、奇しくも時原佐道の
子ともでした。後年に浄土教の
開祖と仰がれた証如上人につい
て、鎌倉時代に『元享釈書』
は次のように載せています。

釈証如 姓時氏 時原氏也
撰州豊嶋郡史時原佐道之子
也

明治四一年の神社合併でなく
なつた大雄天王社の西側は、医
王山大宮寺の境内で、そこに本
尊を安置した薬師堂があります。
この大宮寺の縁起にみえる寺の
由来は次のようです。
山号を医王山と称す、宇多

教に随い、華師仏を刻み安
置す、神の教をもつて大宮
寺と号す

平安時代の寛平四年(八九二)
に聖宝尊師が開いたという大宮
寺は、また時原佐道という豊島

この時原氏については、『三代
実録』の清和天皇貞観五年(八
六二)中の記事に「泰」を改姓
して「時原姓」を天皇から賜つ
たことも見えるので、この家系
であつたかと考えられます。そ

がありまます。従つて北萱野に大
宮寺を建立した時原氏は池田泰
氏の系統ともみられましよう。
ところで、この時期の裏面て
の大きな出来事としては清和太
上天皇の勝尾寺参詣があります。

今は薬師堂だけの残る大宮寺
の縁起を頼りに、九世紀末にお
ける萱野地区の歴史を彩つた人
間模様をみてみました。その結
果、かつてこの地区に米つくり
の新時代をもたらした為那氏族
が姿を消してしまひ、かわつて泰
氏系統の人々とその勢力が当地
方で栄えたという、歴史の推移
と興亡を知る事ができました。